

令和7年12月15日

令和7年度 光道園朝日地区事業所 地域連携推進会議議事録

1. 日時

令和7年12月9日（火） 13:30～16:00

2. 場所

光が丘ワークセンター（丹生郡越前町朝日 3-13-1）

3. 出席者

- ① 利用者代表 O. K 様（光が丘ワークセンター）
- ② 利用者代表 A. N 様（ライトホープセンター）
- ③ 利用者代表 Y. S 様（とらいと）
- ④ 家族の方 M. T 様（ひかり会 会長）
- ⑤ 家族の方 Y. K 様（とらいと）
- ⑥ 地域の関係者 Y. T 様（朝日地区民生委員）
- ⑦ 市町村担当者 W. D 様（越前町障がい生活課 主査）
- ⑧ 事業所 Y. K 光道園理事、光が丘ワークセンター施設長
- ⑨ 事業所 T. A ライトホープセンター施設長
- ⑩ 事業所 M. K ライトホープセンター副施設長
- ⑪ 事業所 S. M ライトホープセンター副施設長
- ⑫ 事業所 N. F とらいと管理者

4. 議題

- ① 地域連携会議について（見学前）
- ② 3事業所の概要（見学時に各事業所にて説明）
- ③ 3事業所見学を終えての情報共有・意見交換

5. 配布資料

地域連携推進会議次第、地域連携推進会議の手引き（構成員用の部分を抜粋）

6. 議事

- ① 地域連携会議について⇒配布した資料で説明。
 - ・障害者支援施設と共同生活援助（グループホーム）について
 - 障害者支援施設・・・日中活動を居住スペース内で行っている事が多い。

共同生活援助・・・全利用者が日中は生産活動等、通所事業所へ行っている。

共通事項として・・・外部の目が入りづらく、事業運営が外部に見えづらい。

・地域連携推進会議について

目的・・・利用者と地域との関係づくり、サービスの透明性・質の確保、地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進、利用者の権利擁護

内容・・・施設による会議の開催、構成員による施設訪問

・構成員の役割について

- (1) 会議に出席して、施設と情報共有や意見交換を行い、施設のことを知り、施設等と地域をつなげる。
- (2) 施設等に訪問し、施設見学や利用者・職員とのコミュニケーションを通じて、施設等の環境、利用者・職員の様子などを確認し、利用者・職員とつながりづくりをしていく。

・施設訪問時に確認するポイント

- (1) 施設環境、利用者、職員の視点で分けてみていく。
- (2) 利用者・職員と会話してみる。

② 3事業所の概要（見学時に各事業所にて説明）

※光が丘ワークセンター⇒とらいと⇒ライトホープセンターの順で見学。

(1) 光が丘ワークセンター概要

施設入所支援(50名)、生活介護(光ワーク入所の方47名、通所の方7名)、短期入所(3名登録)、平均年齢64歳。

職員総数20名、日中は約12名、夜間は1名で支援している。

月～金の作業(水曜日は午前のみ)、クラブ活動、グループ活動、個別活動を実施している。

【光が丘ワークセンター事業概要の質疑】

部屋はどのように決めたのか

⇒一人ひとりの希望を聴いたうえで、身体状況や人間関係、建物動線を踏まえて調整し、一人ひとりに説明のうえ、決定した。

部屋の装飾や使用に関して制限はあるのか

⇒各入居者の家なので、一人ひとり好きなように装飾やレイアウトをしていただいている。

献立表をみると、季節的なメニューが少ない気がする。クリスマスの日にそれらしきメニューになっていない。

⇒確認すると、チキンのトマト煮込みなど洋食にはなっているが、クリスマスにちなんだものではなかった。12/25にクリスマス会を予定しているのでその際にケーキ等を提供させていただくことになっている。

(2) とらいと概要

男性棟（10名）女性棟（10名）で平均区分2.9、最高齢61歳、最年少20歳。
職員は世話人（午前・午後）、夜間は宿直者1名で対応。ナースコール完備。
日中は全員外部の通所事業所へ通っている。朝晩の食事の提供や掃除、健康管理
等が主な支援内容。個室でトイレ・洗面付き、浴室は共同で掃除は当番制。

【とらいと事業概要の質疑】

- ・地震時の緊急地震速報はどのように入ってくるのか
⇒ナースコールの受信機がスマートホンになっており、その端末に入ってくる。
- ・築何年になるのか
⇒平成25年に建てられており、12年になる。
- ・宿直は棟ごとに配置があるのか
⇒2棟で1人の体制。

(3) ライトホープセンター概要

障害者支援のための入所施設として、1階もえぎ館・2階あさぎ館に計135名の居住スペースがある。特に、もえぎ館には、身体的な障がいにより車椅子が必要な方が多く生活されている。また、通所施設わかば館も併設され、パーテーション等で区切った環境も取り入れながら作業やレクリエーションの支援をしている。

【ライトホープセンター事業概要の質疑】

- ・もえぎ館の個室にトイレは設置されていないのか？⇒共有トイレのみ
- ・あさぎ館では、視覚障害の方に対し点字での情報提供がなされているか？
⇒食事のメニュー等を掲示板に提示し、自主的に情報が得られるようにしている

③ 3事業所見学を終えての情報共有・意見交換

【家族からの質疑】

- ・現在はグループホームでの生活が出来ているが、年齢を重ねていく中で身体や家庭状況が変わった場合には、施設を移動することは出来るのか
⇒モニタリングやカンファレンス等にて相談員等と今後の暮らし方や暮らす場所について検討することが出来る。

【家族からの意見】

- ・以前の家族会で意見のあった『虐待の抑止力としても効果が期待出来る見守り用カメラの設置』の検討をお願いしたい。
⇒みらいと（女性用グループホーム）の居室前廊下が見渡せるようにカメラが設置されており、防犯の目的以外に、虐待防止としても抑止力となっていると感じている。

【地域関係者からの質疑】

- ・光が丘ワークセンターのご利用者が『光が丘夏祭り』に参加していなかった様子を見た。今後、光道園の大きな行事への参加の仕方についてどのように考えて

いるのか？

⇒『光が丘夏祭り』は地域の方に向けての行事として捉えている。ただ、同じ敷地内での催し物なので以前は参加していた。来年度は、利用者が参加出来るやり方で夏祭りを計画していきたいと思っている。

【地域関係者からの意見】

・10月の朝日地区主催『健康ウォーク』に、今年度も継続して光が丘ワークセンターの利用者が参加されたことを嬉しく感じている。また、光が丘ワークセンターで生活されている方と地域の方が直接ふれあうことが出来たのも良かったと感じている。今後、地域と施設の双方で、日常的な関わりはもちろん、イベントを通して関わり合いが持てるような取り組みも大事だと思う。

【行政からの意見】

・一つの地域の中に多様の施設があり、地域資源としても重要な役割を担っている光道園であるため、行政としても繋がりを大事にしていきたい。
・ライトホープセンターでは、利用者が積極的に挨拶をされ、職員も業務に集中しながらも目が合えば挨拶をされる等、自然な形で交流が出来た。

【利用者からの意見】

・光が丘ワークセンターで生活しており、念願のとらいと見学が出来て良かった。また、このような機会を作って欲しい。
・ライトホープセンターを初めて見学し、お風呂が広くて、飾ってある絵が上手で、廊下も広く感じた。今回はエレベーターを使ったが、今度は階段を使ってみたいと思った。また、自身が生活している『とらいと』は、当番制の掃除を忘れてしまう人はいるが、24時間換気がされていて結露もなく過ごしやすいと思う。
・光が丘ワークセンターの作業や生活の様子を見学して、「自分にとっては厳しい」と感じた。

【その他：光が丘ワークセンターへの質問】

・カラオケをすることは出来るか⇒通信カラオケを楽しむことが出来る
・調理をすることは出来るのか⇒リビングキッチンにて調理が出来る

【おわりに理事 山田勝久より一言】

特に入所施設は、自身の生活や職員による支援が施設内で完結してしまう傾向があり、それが良くない結果となる場合もある。そのため、少しでも地域社会と繋がりのある環境で生活出来るよう「地域に出ていこう」という視点で支援に取り組み、実際に地域の方々との繋がりを深めていきたいと考えている。